

図書だより 卒業おめでとう号

2025年2月 三島高等学校 図書委員会

卒業生に読んでほしい本

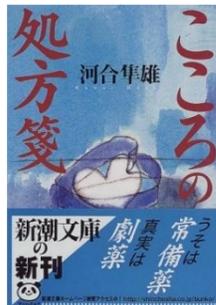
3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年学年団の先生方から、「卒業生に読んでほしい本」を紹介していただきました。先生方の顔を思い浮かべながら、ぜひ読んでみてください。♪♪

岡田 大志先生 (学年主任) / 『アメリカ陸軍サバイバルノート』 鄭 仁和 訳・編

未曾有の大災害や戦時になった際、生き残るためには「知識と行動力」が必要だ。安全な水を得る方法、食べられる植物や昆虫の知識、応急手当、シェルターの作り方等々、生存に必要なあらゆる知識が網羅された一冊。

小倉 一哲先生 (301 担任) / 『こころの処方箋』 河合 隼雄

私が大学在学中、恋愛に使える心理テクニックを学ぼうというよこしまな気持ちで受けた心理学の授業で教授から紹介された本です。最近では、必殺技や裏技のように、人の心がわかるようなことを平気で書いてある心理本がたくさん売られていますが、この本はそういったものとはどこか違います。これからたくさんの人と出会い、新しい人間関係を築いていくと思いますので、人との付き合い方や自分の心との向き合い方など参考にしてみてください。



尾崎 信也先生 (301 副担任) / 『下町ロケット』 池井戸 潤

著者の代表作といえる作品でありドラマ化もされているので、既に読んだ人も多いかと思えます。この作品を通して勤労意識や労働観、人生観などを学ぶことができます。就職の人は卒業後すぐに、進学する人も数年後には仕事に就きます。豊かな人生を送るためにも、人生の多くを費やす「働くこと」に対して、やりがいや熱意を持って取り組んでくれればと思います。

卒業生の皆さんがこれからの人生でたくさんの本と出会い、素晴らしい人生を歩んでくれることを心から願っています。



篠原 奈津季先生 (301 副担任) / 『クスノキの女神』 東野 圭吾

不思議な力を持つクスノキと、その番人の元を訪れる人々が織りなす物語。「クスノキの番人」の続編です。切なくも心温まる、読んでよかったですと思える一冊でした。生きている今を大切に。



小原 秀雄先生 (303 担任) / 『社長ってなんだ』 丹羽 宇一郎

バブル崩壊後に、赤字経営に苦しむ伊藤忠商事を救った有名社長。著書は他に「部長ってなんだ。」等多数。モーレツサラリーマンと呼ばれた人がたくさんいた時代の人。

仕事の見方、考え方を教えてくれる一冊。伊藤忠商事の就職試験では、「君はアリになれるか？トンボになれるか？人になれるか」と問うた。若い時代はがむしゃらに働くアリの、そのうちまわりを見渡し行動できるトンボに、そして最後は関わる人に思いやりをもって接するヒトになっていけるか？ということ。「生きる＝働く」の価値観から眺める一冊。高校を卒業すると、社会が一気に近くなります。働くことについて考える一冊をお勧めします。



五味 むつみ先生 (303 副担任) / 『われは熊楠』 岩井 圭也

だれにどう思われようと、自分が「知りたい」と思ったことを、とことん追求しようとする熊楠の姿が、圧巻です。「好奇心」が生きるエネルギーの源であることを、改めて思い知らされる本です。



岡内 まどか先生 (304 担任) / 『喜嶋先生の静かな世界』 森 博嗣

知的探求の喜びや、「学ぶこと」の本質が静かに、そして深く伝わってくる一冊です。これから新しい世界へ飛び込む皆さんへ。自分で考え、試行錯誤する積み重ねが、皆さんの人生をより豊かにしてくれることでしょう。



吉澤 静恵先生 (304 副担任) / 『風が強く吹いている』 三浦 しをん

最近ちょっと心が穏やかではないなと感じたとき、私はこの本を読み直します。自分と向き合うってこういうことか。成し遂げた先に見えるものは何だろう。信じるってすごいな、とんでもないな。そんな気持ちを感じながら読み終えた時、世界が少しだけ美しく見え、何かに挑戦してみたくになります。この気持ちを皆さんと共有できたら嬉しいです。



池田 由里恵先生 (305 担任) / 『ミヒヤエル・エンデ』 モモ

ミヒヤエル・エンデの『モモ』に登場する「時間泥棒」は、決して架空の存在ではありません。時間に追われ、効率を最優先する現代社会にこそ、彼らの姿が色濃く映ります。そんな世界で、「モモ」という少女が示す行動や言葉は、「生きること」の本質を私たちに思い出させてくれます。

児童文学には、大人がつい見失いがちな大切なことが、やさしく、しかし力強く描かれています。子ども向けの本だからこそ、飾らない言葉で心に響くのです。日々の喧騒に疲れたとき、この物語を開いてみてください。忘れていた何かがそっと蘇るかもしれません。



嘉村 良子先生 (305 副担任) / 『成瀬は信じた道を行く』 宮島 未奈

前作の「成瀬は天下を取りに行く」では、中学2年生の成瀬あかりが、正直にまっすぐに行動し成長する、読んでいるこちらが時々切なくなるような場面もありました。

続編の「成瀬は信じた道を行く」は、あかりの家族エピソードや京大受験話など、読み進めるのが楽しい内容がいっぱいの一冊で、読書後、とってもしがすがしい明るい気持ちになりました。

もっと若い時に読みたかったなあ・・・と思う一冊です。



安藤 計先生 (306 副担任) / 『考え方ひとつで明日はもっとうまくいく』 内藤 誼人

ポジティブ心理学の知見にもとづき、考え方や行動のどこを変えたらいいかを解説しています。新しい人間関係を築いていくうえで参考になることがあると思います。



内海 篤彦先生 (307 担任) / 『りんごかもしれない』 ヨシタケシンスケ

テーブルの上りんごがおいてあった。

・・・でも、もしかしたら、これはりんごじゃないかもしれない。

「そうかもしれない」と考えることができるきっかけになる絵本かもしれない。



森下 富美子先生 (307 副担任) / 『置かれた場所で咲きなさい』 渡辺 和子

就職や進学あるいは結婚、子育てをしていると、自分の本意ではなく、「こんなはずじゃなかった」と思うことが次から次へと出てきます。時間の使い方は、そのまま、命の使い方です。どんな状況に置かれても、その中で「咲く」努力をしてほしいと思います。



先生方、ありがとうございました!!!!

友だちや先生との出会いが一期一会であるように、本との出会いも一期一会です。これからも、たくさんのいい出会いがあり、皆さんの世界が広がりますように……。

